地元３町会３特養合同消火訓練（11月16日）

浴風会

12月号

令和２年 12 月１日発行
【発行者】〒 168-8510
東京都杉並区高井戸西 1-12-1
社会福祉法人　浴風会
ＴＥＬ（代表）03-3334-2101
https://www.yokufuukai.or.jp/
【編集者】浴風会本部事務局
浅井　敏男
【印刷所】株式会社サイド・ビー

困難の中での社会福祉法人の役割

～地域社会との協働を進める浴風会への期待～

社会福祉法人 東京都社会福祉協議会
会長　木村　恵司

２０２０年は社会全体が新型コロナウイルス感染症の世界的流行による影響を受けた年でした。とりわけ福祉事業が受けた影響は深刻であり、浴風会におかれましても、高齢者福祉施設をはじめ浴風会病院、認知症介護研究・研修東京センターなど、幅広く事業を展開するうえで多くのご苦労があったものと推察します。

浴風会は、２０２０年３月に策定された中期事業計画において、地域公益活動等を推進させていくことを冒頭に掲げておられます。社会福祉法において、社会福祉法人には地域社会のニーズや課題に即した活動を積極的に展開していくことが求められており、そのためには住民や地域社会の様々な関係者と協働した地域福祉活動が必要となります。それ故、接触を伴う活動に制約を受ける現在のコロナ禍の中、その協働事業を円滑に実施することは容易ではないと思います。

一方、東京都社会福祉協議会においても、地域福祉推進委員会の地域福祉推進検討ワーキングにおいて「生きづらさを抱え、孤立しがちな人を包摂し、共に支え合える地域社会のあり方について」をテーマとした地域社会との協働にかかわる検討を行っています。その中では、福祉の専門職や専門機関がこれまで以上に積極的にアウトリーチして、埋もれがちなニーズに向き合い、ネットワークを活かして解決を図っていくこと、そして、困難を抱える住民を支えていくには、生活困窮者自立支援制度等による公的な支援にとどまることなく、地域づくりをすすめるコーディネーター、社会福祉法人による地域公益活動、民生児童委員、ＮＰＯ法人をはじめとする市民活動との協働体制（プラットフォーム）の構築が重要であることなどが議論されています。

こうした地域との協働による取組みは、現在のコロナ禍の中においても不可欠です。今、困難な状況にあって伝統と実績のある浴風会とともに地域社会との協働を進めることは、心強いものであり、今後の浴風会の活動を大いに期待するところです。例年、私が籍を置く会社のある丸の内周辺では、冬の風物詩イベントとして、丸の内イルミネーションが行われております。今回は、医療、介護等の最前線で献身的に活動されているエッセンシャルワーカーの方々への感謝や日本全国への応援をテーマに実施されているところです。あらためて浴風会で働く役職員の方々をはじめとする福祉関係者のみなさまが、健康に留意されつつ、その使命を果たされることを願ってやみません。

コロナ禍と認知症介護家族

浴風会ケアスクール
校長　服部　安子

新型コロナウイルスの猛威は、２０２０年11月末現在「第３波」と疑われるうねりとなってその姿を現し始めています。いまだ収束の見通しが立たず、未知なことも多いまま、私たちの生活には継続的な影響があります。私たちが13年間１５０回行ってきた認知症介護家族会や、７年間続けてきたコミュニティカフェは３月にやむを得ず中止し、今も再開してない状況です。

10月末、当会の介護家族会の皆さまにコロナ禍における生活について簡易実態調査を行いました。

『人と会ったり、電話をしている』方の多くは、メールやＬＩＮＥを使ったコミュニケーションの生活に「慣れた」と感じている一方、『人と会ったり、電話をしていない』方は、「ストレスがある」「不安（感染・生活）」「体力低下」などを感じているという回答が多くありました。また、現在介護中の方は、友人や親せきなど身近な人に相談をしながら過ごしているようでした。よくふう語ろう会の再開については、「必要性を感じている」「感染は不安だが参加したい」「再開したら参加したい」との回答を多くいただき、自由記述欄には「早く再開を願う」「介護者は孤独です」「介護家族と話したい」というご意見もありました。介護相談は待ったなしですので、自らの立ち位置に毎日歯がゆい思いでいます。

リモート開催の要望もありますが、「誰でも、いつでも、顔の見える」関りを大切にしてきた当会としては、IT環境の整っている方とそうでない方との溝を作りたくないと考え、面会や手紙、お電話等で伝わってくることを冊子にして配布し、近況報告として伝え合っています。

４～５月の自粛期間では、「非日常」だった三密を避けてソーシャルディスタンスを維持する生活は今、感染から命を守るために「日常」と捉えなおす必要性を多くの人が感じて過ごしています。しかし、マスクを外して外に出ていこうとする認知症の方と孤軍奮闘する介護家族は今も変わらずいます。疾病の進行とともに「行動変容する姿」をその都度受け止めなければならない認知症介護では、肉声の励ましや実際の「手助け」が必要です。ITによって、オンラインによる人と人との新しいつながり方が生まれたよさはあるかもしれませんが、AIやロボット、リモートでは担い切れないもののなかに介護や医療による弱者へのケアがあります。心の支えや社会との関わりは、視覚や聴覚だけではなく、相互交流による他者の触覚や共に食しながらの味覚や体温を感じる触れ合うコミュニティが必要なのです。つまり「社会的なつながり」を抜きにはできないのです。

今年生誕２００年のナイチンゲールは、著書「看護覚書」に感染症対策として「窓を開ける」ことを徹底したと記しています。わずか百数年前の先人もウイルスの脅威と闘って、今日があることが救いです。

一日も早く、このウイルスを恐れる必要がない日がくることを信じて、平穏な日々を過ごせるよう祈らずにいられません。これから、本格的な寒さもやってくるでしょうから、くれぐれも体調管理には十分注意してお過ごしください。

浴風会栄養サービス調整室の役割と取り組み

栄養サービス調整室・南陽園　主任管理栄養士　山本　雪

浴風会の事業本部には平成16年から会内の管理栄養士で構成されている栄養サービス調整室が設置されています。その要綱には「食・栄養に関するサービスの向上を図り、ご利用者や職員のＱＯＬを高めることを目的とするとともに、食・栄養に関係する者の緊密な連係等を図るため、栄養サービス調整室を設置する」とあります。

その要綱を踏まえた実際の活動内容としては、まず一つ目に委員会を定期的に開催しています。行事食や厨房機器の修理状況などの報告や情報交換を行い、他施設や病院の意見を参考にして日々の業務に役立てています。

次に「彩食だより」という掲示物を年４回発行しています。現在は66号まで途切れなく持ち回りで作成し、新任職員が入職した際には自己紹介を掲載したり、季節に合わせた食品に関する知識などの広報活動を行っています。

その他にも地域関連機関と連携し栄養に関する情報提供を行ったり、外部の方に向けた研修会の講師の依頼を受けたりすることもあります。

委員会の時以外は管理栄養士同士なかなか会うこともなく、所属する施設や病院の管理栄養士としてそれぞれ業務についています。栄養サービス調整室としていろいろな活動を行っていますが、この委員会があることでお互いの顔がわかり、何かあったときは協力し合える関係が作れていると感じています。

最新号の彩食だよりをご覧ください。

第66号

彩食だより

浴風会事業本部
栄養サービス調整室
令和２年11月10日発行

発行：社会福祉法人浴風会／〒168-8560　杉並区高井戸西1-12-1／℡　03-3334-2101

アンコウについて

寒くなってくると鍋物が恋しくなってきます。いろいろなお鍋がありますが、アンコウ鍋も格別です。味噌ベースや醤油ベース、肝を出汁に溶いて混ぜるタイプと混ぜないタイプなど、お好みもありますがそれぞれ美味しいお鍋です。
今回はそんなアンコウについて取り上げてみました。

産地と旬

主な産地は茨城県や三陸沿岸などで多く水揚げされています。茨城県では水戸や大洗の冬の名物として知られていますが、国内で最も多く水揚げしているのは山口県の下関です。
真夏の時期を除き通年で水揚げされていますが、春には産卵に向け肝が小さくなるとされ、秋から肝が大きくなることや鍋物の用途が中心ということでも旬は晩秋から冬と言えます。

有効成分とその働き

・身は低カロリー
　アンコウの身は脂肪が少なく、サバの1/3以下のカロリーしかありません。
・肝はEPAやDHAがたっぷり
　肝にはn-3系脂肪酸のEPAやDHAが多く含まれています。これらには抗血栓作用、血液凝固抑制作用があるとされ、血液をサラサラにしてくれると言われています。
・肝にはビタミンAも多く含まれる
　ビタミンAとも呼ばれるレチノールは活性酸素を抑え動脈硬化や心筋梗塞などの生活習慣病から守る働きのほか、皮膚や粘膜の細胞を正常に保つ働きや免疫力を高める働きなどもあるとされています。

アンコウの七つ道具

一般的な魚でいうところの身の部分は体の大きさに対してとても小さく、一見歩留まりの悪い魚ですが、実は身だけでなく大きな肝や胃袋、卵巣、皮、ヒレ、さらにエラまで食べられ、捨てるところが少ない魚なのです。
これらをアンコウの七つ道具と呼びそれぞれに呼び名がつけられています。
身の部分を「柳肉」、肝臓は「きも」、卵巣は「ぬの」、ヒレは「とも」と呼ばれ胃袋は「水袋」それに文字通り「えら」と皮「かわ」です。
アンコウ鍋には全て入れるのが本来のレシピだそうです。

簡単レシピ　あん肝ポン酢

＜材料　２人分＞

アンコウの肝	200ｇ
塩	適量
酒	適量
もみじおろし	10g
万能ねぎ	適量
ポン酢	20 cc

＜作り方＞
①肝を冷水にさらし十分に血抜きした後、表面の薄皮を剥き、中の太い血管も取り除く。
②たっぷり目に塩を振り20～30分馴染ませ余分な水分を出す。
③表面の塩を洗い流して、酒を振りかけて少し馴染ませる。
④表面の水分をキッチンペーパーでふき取りラップに乗せてソーセージのように両端を持って転がし、円筒形に整形してアルミホイルで包み、20分ほど蒸し上げる。
⑤冷蔵庫で冷やし、切って盛り付ける。

冷え性予防

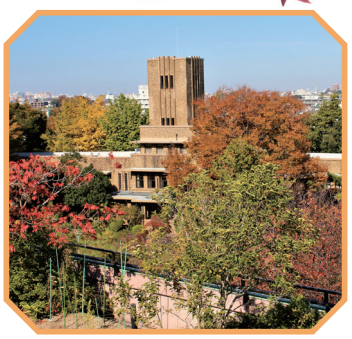
冷え性の方にはつらい季節です。
改善するためのおすすめの食品をご紹介します。

●熱エネルギー源となるたんぱく質
　魚、肉、卵、大豆製品、乳製品など
●血行を良くし新陳代謝を高めるビタミンE
　南瓜、アボカド、アーモンド、ピーナッツなど
●体の各器官に酸素を運ぶ鉄分
　レバー、あさり、しじみなど

これらの食品を意識して摂るのと同時に、バランスの良い食事を心がけることも大切です。

最新号　彩食だより（66号）

浴風会の動き（11月）



【本部事務局】

11日～24日　監査法人による拠点監査（リモート実施）
対象：本部事務局、病院、南陽園、ひまわり

17日　団体交渉

18日　日本農林漁業振興会様より鉢植え花80鉢、乾燥椎茸等寄贈。各施設へ配布

24日　立正佼成会杉並教会様より精米50kg寄贈。浴風園にて使用　（浅井）

浴風会ケアスクール

Caféオレンジリボンウッド

2日　介護職員初任者研修16期生スクーリング開講、毎週月曜日。受講生23名（15期生補講1名）講師：橋村あゆみ氏、大津陽子氏、奥村まほろ氏、職員：百瀬、大澤、服部、鈴木。

10日　介護職員初任者研修15期生スクーリング、受講生10名。講師：越智佳子氏。

17日　介護職員初任者研修15期生スクーリング修了式、受講生11名修了（14期生補講1名）

定期的に開催しております、「よくふう語ろう会」（第2水曜日）と「Café オレンジリボンウッド」（第2月曜日、第4金曜日）は、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、当面開催を中止とさせていただいております。（鈴木）

【老人福祉事業】

浴風園（養護老人ホーム）

4日　今月から感染症に気を付けながら、陶芸クラブ・筋力トレーニング・創作クラブを再開しました。どのクラブも少人数で密とならぬよう、換気、消毒を実施しました。

陶芸クラブでは、来年の干支である、牛の置物を制作しました。思い思いの個性あふれるかわいい牛が出来、お互い作成した牛を見比べたりと、久しぶりの活動で、笑顔で楽しまれていました。

筋力トレーニングでは、男性クラブ員と女性クラブ員とで2グループ制に分け、準備体操から行い、マシンを利用しトレーニングをされました。（徳増）

松風園（軽費老人ホーム）

24日　「文化祭・作品展示」園の1階廊下には、今年のコロナ禍に負けず、作成した力作がずらりと並び、ご利用者皆様の目を楽しませていただいております。カメラクラブや絵手紙クラブ、墨絵クラブ、生花クラブと個人作品、どの作品も素晴らしい芸術と英知の結集であり、その感性には万感胸にせまる思いです。（宮中）

浴風会ケアハウス

10日30日　カフェケアハウスでは、ハロウィンの雰囲気で開催しました。フルーツたくさんで鮮やかなタルトケーキは、好評でした。

新型コロナウイルス感染症の第3波と言われるようになり、誕生会・食事会は再度延期とさせていただきました。より一層の予防と感染拡大防止対策を心がけることを利用者全体会（放送）でご利用者の皆様とも共有いたしました。（尾滝）

【介護保険事業】

南陽園（特別養護老人ホーム）

コロナウイルスの影響でなかなか外に出かけられない日々が続いていますが、機能訓練室では施設の中でも「秋」を感じていただこうと、夏に剪定した老木を使い「もみじの木」と「秋のパッチワーク」を作成しました。

完成したもみじの木とパッチワークは、玄関前のロビーに飾り皆様の和の空間となっています。ホームページには、もみじの木の作成風景を載せていますので、そちらもご覧ください。（丸山）

南陽園在宅サービスセンター（認知症対応型通所介護）

12月を目前にして、デイサービスでは、恒例のクリスマス飾りを作成しています。

昨年はクリスマスリースを作成しましたが、今年はクリスマスツリーの小さな壁飾りを作りました。

ペットボトルのふたを、色々な模様の色紙で包み、ツリーのようにして台紙に貼っていきます。最後にリボンをつけて完成です。

「来年はいいことがありますように」願いを込めてデイルームに飾ります。（鶴間）

★各事業のお問い合わせは随時行っておりますので、お気軽にご連絡下さい。
（鶴間・工藤）
◎電話03―3334―2743

第二南陽園（特別養護老人ホーム）

16日　3特養合同防災訓練を地域の方も参加していただき実施しました。

18日　クッキング★カフェでは、「レンコンクレープ＆柿ゼリー」を作りました。クレープ生地に掏ったレンコンを混ぜ、ホットプレートで薄く焼き、あんこ・バナナなどで自分好みのクレープを召し上がりました。

20日　誕生会で寿司を召し上がりました。「今日のご飯はおいしいわ」とても喜ばれていました。（石渡）

第二南陽園在宅サービスセンター
（通所介護、介護予防通所介護）

10月に引き続き、小春日和の穏やかな日は園庭散歩を実施しました。深まる秋の空気を感じる時間となりました。今年も早いもので、気が付けば師走の足音が聞こえて参りました。そんな今日この頃ですが今月も皆様は、お変わりなく楽しくお元気にご通所頂いております。（隈本）

★ご見学のお申し込みやお問い合わせは、随時受け付けています。
◎03―3334―2140

第三南陽園（特別養護老人ホーム）

「誕生会」

20日　園全体で誕生会を開催。毎月お祝いをさせていただいているのですが、11月は特別な会です。昼食に寿司桶に盛った本格的なお寿司をご用意しています。マグロやイクラ、脂の乗ったブリなど季節の魚をご利用者の方は美味しそうに召し上がっていました。「美味しいわ。毎月やって頂戴。」とのリクエストが多く聞かれました。

「園庭散歩」

11月暖かい日には職員が付き添い園庭散歩を行っています。浴風会の園庭には様々な落葉樹があります。紅葉や銀杏や桜など赤や黄色に染まった木々を見ながら、「もう秋なのね。」と季節感を感じていただけたようでした。職員も一緒に冬支度をしています。（佐々木）

グループホームひまわり

4日　秋晴れの日に、花壇にチューリップの球根を80球と水仙などの球根を多数植え、畑には玉ねぎの苗400本を植えました。春に赤・白・黄色のチューリップや水仙が咲くのがとても待ち遠しいです。寒さに負けず元気に育ってくれることを期待しています。

18日　みそ作りを行いました。茹であがった大豆をつぶして、米麹と塩を合わせ混ぜます。混ぜたものを団子のように丸めて樽に叩きつけて詰めました。「母が作っていたわ」「懐かしいわ」と笑顔で話されながら作られていました。半年後の完成が楽しみです！（谷口）

【地域サービス事業】

地域包括支援センターケア24高井戸

10月30日　「認知症サポーター養成講座のステップアップ講座」を開催。以前、サポーターの講座を受講しオレンジリングをもらったが、もっと認知症について知りたい、何か出来る事が有ればしたい・・・という方々に受講して頂きました。

今回は、認知症グループホームひまわりのホーム長に入居者の暮らしについて話して頂き、「認知症」といっても一人一人対応の仕方が違う事。その方の事を知ろうという気持ちが大切だという事を学びました。その後、日頃の参加者の方々の関わり方の情報交換を行い、さらに深く学ぶ機会になりました。今後もこのような場の必要性を共有し、「チームオレンジ高井戸（仮）」として、定期的な情報交換の場を作って行く事にしました。（尾関）

杉並区地域包括支援センター　ケア24高井戸
◎電話03―3334―2495

【病院事業】

浴風会病院

12月29日から1月3日まで一般外来は休診となります。区民検診は2月28日までとなっています。まだ、受検されていない方は、早めにご予約ください。

ご来院の際のお願いです。
「37度以上の発熱状態が数日続く」「37．5度以上の発熱があった」場合には玄関前の受付にお申し出ください。他の方への感染を防ぐためにも、ご協力をお願いいたします。（多胡）

◎予約電話　浴風会病院
03―3332―6511（代表）

老健くぬぎ（介護老人保健施設）

17日　この時期の美味しいものということで、おやつの時間に「焼き芋」を提供しました。各ご利用者の食形態に合わせて提供し、季節の食べ物を皆さま美味しそうに召し上がっていました。3階のデイケアでも16日～21日の期間で同様に召し上がっていただきました。

8日～22日　ご利用者へ「コーヒー喫茶」と称して、本格的なコーヒーを召し上がっていただきました。フロアにコーヒーの香りが漂い、喫茶店のような雰囲気のなか美味しいコーヒーを楽しまれたようです。

新型コロナウイルス感染拡大のため、面会制限を行うこととなりました。ご迷惑をお掛けしますがご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。詳しくはホームページをご覧ください。（森屋）

★入所・デイケア・ショートステイご利用のご相談はお気軽にご連絡ください。
◎03―5336―7701（代表）
◎03―5336―7734（入所）
◎03―5336―7704（デイケア）

【研究・研修他】

認知症介護研究・研修東京センター

9日　東京センター運営会議（Zoom）
16日　センター会議、研究部長会議、研修部長会議、ケアレジストリ研究会議（Zoom）
20日　全国運営協議会（Zoom）
25日　推進員ウェビナー研修

認知症地域支援推進員自作動画配信参加登録いただいた方に、詳しい案内をお送りします。

皆さんのご参加お待ちしております！

左記URLよりお申込みください。
https://zoom.us/webinar/register/WN_akC78uG-RxWKOnenlS4Mqg　（冨島）

浴風会病院　患者さんと過ごす訪問看護の時間

訪問看護室　滝沢　美幸

訪問看護室は、病院１階の「在宅医療介護支援室」内に医療相談・支援室、医療連携室とともにあり、訪問看護と訪問リハビリの２つに分かれています。

今回は、訪問看護師の役割と業務内容についてご紹介します。

在宅支援室の前で
（向かって右が筆者）

訪問看護室は、看護師２名で勤務しています。そのため、訪問件数は限られますが地域（在宅）のご利用者及び構内の老人ホームのご利用者を１日５～６名訪問しています。また、ご利用者、ご家族は沢山の不安を抱えていますので、時間が許す限り電話でのご相談にも対応しています。医師の訪問診療にも同行しますが、訪問時には限られた時間の中で、ご利用者、ご家族に安心につながる対応にも努めています。時には、黙って側にいて見守ることも必要です。構内のグループホーム「ひまわり」の 18 名の入居者の方には、医療連携業務委託契約により毎週水曜日に血圧測定等の健康チェックを実施しています。入居者の皆さんには、訪問日を楽しみに待っていただいております。

「GH ひまわり」の様子

次に、訪問看護実施までの流れを紹介します。

当院の、訪問看護は、当院をかかりつけとされている患者さん、ご家族からのお申込みに対応しています。入院患者さんの退院時カンファレンスに訪問看護師も参加し、退院後の訪問予定日等を決定します。外来では、地域包括支援センター、地域の訪問看護ステーション等で情報共有し、外来受診時に合わせ患者さん、ご家族と面談し訪問予定日等を決定します。なお、当院訪問看護室へのお申込み・ご相談等がありましたら、遠慮なく「在宅医療介護支援室」までお申し出てください。

「GH ひまわり」の様子

これからも、ご利用者とご家族へよりよい支援を行っていきたいと思いますので、よろしくお願い致します。

浴風会病院「在宅医療介護支援室」　TEL　03（5370）5017

※写真「GH ひまわり」の様子は、ご利用者、ご家族の承諾を得て撮影しています

お知らせ

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、浴風会病院及び各施設におきましては面会の一部制限を行っております。また、会内レストラン（第三南陽園、ケアハウス）の一般利用者のご利用を控えさせていただいております。

詳しくは各施設へお問い合わせください。

ご芳志

令和２年10月16日から11月15日

多くの方々よりご芳情をいただきました。ありがとうございました。

〈金品・物品〉

小山　宏子様、宮沢　郁子様、林　四郎様

●ほか、各施設にもいただいております。

【ご意見をお寄せください】

〒168－8510※住所なしで届きます

機関紙「浴風会」編集部係

soumu2@yokufuukai.or.jp

https://www.yokufuukai.or.jp/